

保健体育部会 研究の構想（案）

平成30年度～

I 研究主題

心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

学習指導要領では、心と体を一体としてとらえることを重視するとともに、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」を重要なねらいとしている。

平成27年度からの3か年は、指導と評価を一体化した指導計画や指導過程の工夫について以下のように研究を深めてきた。

- ・学び合い、高め合う生徒同士の関わりを大切にした課題解決学習
- ・他教科等との連携や人材活用を生かした多様な指導方法
- ・運動量の確保と個に応じた指導の充実
- ・自己評価や相互評価を充実させるためのICT機器等の有効活用

平成30年度からの3か年は、29年度までの研究を継続しながら、「主体的・対話的で深い学び」となる指導過程の工夫について、以下のように研究を深めていくこととする。

「主体的な学び」

- ・自ら運動の楽しさや健康の意義を発見し、課題の解決に向けて、粘り強く取り組もうとする指導過程を工夫する。

「対話的な学び」

- ・運動や健康についての課題の解決に向けて、他者との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程を工夫する。

「深い学び」

- ・自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程を工夫する。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

(1) 体育分野

健やかな体の基礎となる身体能力と知識が定着するようにし、身に付けた段階に応じ運動を豊かに実践していく資質や能力を育てる指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

(2) 保健分野

個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解し、その知識を活用する学習活動を取り入れた指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

2 研究内容

(1) 体育分野

- ・「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」の内容を明確にした指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容に対応した評価規準、評価計画の作成と見直し、指導に生かす評価の工夫

(2) 保健分野

- ・自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容に対応した評価規準、評価計画の作成と見直し、指導に生かす評価の工夫

保健体育部会 平成30年度研究計画（案）

I 研究主題

心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

（体育分野）

身に付けた知識や技能を基に、その段階に応じ運動を豊かに実践していくための指導過程はどうあればよいか。

（保健分野）

自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程はどうあればよいか。

II 主題について

体育分野では、運動に親しむ資質や能力を培うために、運動を豊かに実践したり、自らの健康を管理し、改善しようとしたりするための基礎的な知識や技能を身に付けることや、運動の行い方を理解すること、自己の課題に応じた運動への取組について思考・判断を行うことが大切である。また、明るく豊かな生活を実践していくためには、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲と運動に親しむ態度を育成することがさらに重要となってくる。

保健分野では、生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成が大切である。また、体育分野との関連を図り、心と体をより一体としてとらえられるような学習を展開し、食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活習慣の形成、ストレスへの対処方法、性に関する指導等を積極的に取り入れていく必要がある。

平成27年度からの3年間は、運動や健康に必要な知識や技能を身に付けるだけでなく、ペアや課題別グループ等の学習形態や提示資料、ICT機器を活用することで、生徒同士が関わり合いながら課題解決を図る授業実践が多く見られた。さらに、指導と評価が一体化した指導計画を作成することで、生徒自らが毎時間の課題をもち、学習に取り組む姿も見られるようになった。

そこで、平成30年度は、それらに加え、ICT機器や地域の人材等を有効に活用した指導過程をさらに工夫すること、また運動量を十分に確保しながら個に応じた指導内容を工夫することを通して、自ら運動の楽しさや健康の意義を発見し、粘り強く課題と向き合えるようにしたい。

さらに、習得した知識や技能を分かりやすく仲間と伝え合い、課題の解決に向けて試行錯誤を重ねることで、スポーツの価値や特性を理解し、豊かなスポーツライフの実現に向けて、自他に働きかけようとする資質や能力を育成したい。

そして、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しみ、豊かなスポーツライフを実現することを目指し、これまでの研究をさらに深めていきたい。

III 研究の内容とその視点

（体育分野）

1 指導計画の工夫

- ・発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。
- ・地域や学校の実態、生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮し、指導計画を作成する。

2 指導過程の工夫

- ・学習課題や資料の提示を工夫し、ペア、グループ、全体等、様々な学習形態を取り入れ、運動量を確保したり、コミュニケーションを図ったりしながら、課題解決に取り組む。
- ・生徒自らが必要性を感じ、学習カードや評価カード、ICT機器等を有効に活用できるように工夫する。また、一人一人の伸びが客観的に分かるように、記録や映像等で残るようにする。

3 評価の工夫

- ・自らの活動を振り返り、学習の成果が分かる自己評価や相互評価を工夫するなど、個人のよさや可能性を伸ばすことができる評価を実践する。
- ・評価規準を明確にし、単元全体の評価計画を作成するとともに、一人一人の学習状況を把握して、焦点化された評価の在り方を工夫する。

(保健分野)

1 指導計画の工夫

- ・指導目標を明確にして、指導内容の重点化を図る。
- ・効果的な学習が行えるよう、適切な時期にある程度まとめて学習できるようにする。

2 指導過程の工夫

- ・知識を活用する学習活動を積極的に行う。
- ・専門性を有する教職員や地域の人材等を積極的に活用するなど、多様な指導方法を工夫する。

3 評価の工夫

- ・追究過程を記録したノートやレポート等を生かした評価の方法を工夫する。
- ・観察の観点を明確にし、思考の過程が見えるよう工夫する。

IV 研究方法

- 1 各郡市ごとに研究体制を組織し、部長及び研究推進委員会を中心とした共同研究を推進する。
- 2 学校や地域、生徒の実態等を考慮して、調和のとれた指導と評価の計画を作成し、実践に努める。
- 3 過去の研究の成果や課題を明らかにするとともに、特定の分野、領域（種目）、内容に偏ることなく、県・地区レベルでの情報交換を積極的に行い、研究の充実を図る。
- 4 本年度の研究の成果を「研究の歩み」として記録し、累積を図るとともに、次年度へ生かす資料とする。

